

私の弟

越前市武生第一中学校 3年 山本 春希

私には一つ年下の弟がいます。弟は自閉症という障害があり、こだわりがとても強いです。その一つに、弟はパズルをする時は必ず端の方から順番に当てはめていきます。

また、私達が食べ終えた食器をすぐに台所へ運び、水洗いをしないと気がすまないというこだわりもあります。飲食店に行き、自分の食べた物をカウンターに持っていきそうになったこともあり、その時はビックリしました。

こだわりが強いせいか、自分の思い通りにならないときには大泣きしながら怒ります。都合の悪い時には泣く。私はそんな弟にいつもイライラしていました。

ある日、母が私にこんな話をしてくれました。

ある店に行くときたこ焼きを買うというこだわりが弟にはありました。その時、店にはたまたま行列ができていました。待つことが苦手な弟は、なかなか列に並ぶことができないのにどうしてもたこ焼きが欲しくて、大声で泣き、怒ってしまいました。次から次へと人が並んでいき、途方に暮れていると、ある一人の女の人が、「私も今並ぶから、一緒に買

いましょうか？」と優しく声をかけてくださったそうです。

それから、もう一つ、つい最近の話です。母が少し目を離れたすきに弟が近所のお寺に一人で行ってしまい、母が探していると、弟は、境内を走り回って遊んでいました。母が弟を呼ぼうとした時、女の人が遠くから弟を見守ってくれている様子がうかがえました。その時、母は「境内は走り回って遊ぶ場所ではないのに、怒らずに見守ってくださったんだな。」と感謝していました。私はこの二つの話を母から聞いて、たくさんの人が見て見ぬふりをする中、声をかけて助けてくださる優しくて思いやりのある人がいることをとてもうれしく思いました。

周りの人から見て、障害をもっている人は「かわいそう。」とか「大変だな。」という印象が強いと思います。手を貸してくださった方もこういう理由で手伝ってくださったのかも知れません。私も少し前までは、こういう印象を持っていました。しかし、今はそうは思いません。確かに私達と会話することはできないし、何をするにしても私たちより時間がかかります。それでも、私たちと何の変わりもありません。食べたり、運動したり、勉強したりなど、普段の私たちの生活と同じです。私は、弟が自分を素直に表現できることをうらやましく思います。楽しい時やうれしい時には、とてもよく笑います。そんな時には私までうれしくなって笑顔になります。それで、私は友達に弟を紹介する時は必ず弟のいいところを言い、自慢します。それは、友達に弟のいいところを知ってもらい、「かわいそう。」などと思ってほしくないからです。

助けてくれる人がいるからこそ、自分自身の考えが変わり、今まで「障害を持っている弟はかわいそうだな。」と思いながら接してきたけれど、それは違うんだということが分

かりました。もし、弟がいなかったら、私は障害を持っている人に「かわいそう。」とし
か思わなかったと思います。弟がいたからこそ、進んで手を貸してくれる人に出会えたん
だと思います。私はそんな素晴らしい人に会えたことを弟にも感謝したいです。

弟には、まだ感謝することがたくさんあります。一つは、ボランティア活動に進んで参
加したいと思えるようになったことです。弟が受けた恩を、私が困っている人を助けるこ
とで返していけたらいいと思っています。だから私は、中学校でボランティアの募集があ
ると必ず参加しました。高校生になっても、募金活動やボランティア活動の募集があつた
ら、ぜひ参加しようと思っています。二つ目は、世の中には優しい人がたくさんいるとい
うことがわかったことです。弟の受けた助けは、する人にとっては小さなことかも知れま
せんが、してもらう人にとってはとても大きなことです。助けてくださった方にはもう一
生会えないかも知れないけれど、されたことは一生覚えています。

私達が困っているときに手を貸してくださった方、ありがとう。弟、心優しい人にめぐ
り合わせてくれて、ありがとう。そして、お母さん。私と弟を産んでくれなければ、思い
やりのある人に出会うことができなかつた。私と弟を産んでくれて、ありがとう。